

A-2: URA組織・人材・役割

開催日時・会場 9月3日(火曜日) 10:30-12:00 新C303(3階)

URAに必要な情報収集・分析能力

URAに必要なスキル標準が定義されているが、研修結果の評価が十分でないためにスキルに個人差があり、実際の業務に十分に生かされていない場合との指摘がある。本セッションでの関係するスキルとしては、「研究力の調査、分析手法」に関するものが該当すると考えられる。研究力の調査には、大きく二種類の調査が考えられる。所属する大学が所有する技術シーズの調査、さらにグローバルで広範囲な研究調査があり、それぞれ異なる難しさがあると考えられる。しかし、後者のグローバルで広範囲な研究調査が可能になることにより、初めて自組織が所有する技術シーズの位置づけを評価できるため、特に文献もしくは特許の網羅的な調査方法と得られた結果を分析して課題解決に必要な情報を得るスキルが重要となる。網羅的な調査を実施するためには、調査主題の情報を含む適切な情報ツールを複数選択できること、さらに、選択した情報ツールが作られた情報ソースの種類と範囲、採録基準、索引方法、検索方法などを明確に理解した検索をおこなう必要がある。これらの網羅的な情報検索を企業などで実施しているプロフェッショナルが情報検索技術者であり、INFOSTAはその技術レベルを評価するための検定試験を実施している。すなわち、URAに必要なスキル標準の中にある「研究力の調査、分析手法」の全体的なスキルレベルを向上するために、INFOSTAの検索技術者検定を受験して合格するための研修計画を取り入れるなど、このスキルに個人差がある課題を質保証により解決することが期待できる可能性がある。

オーガナイザー

山本外茂男: 北陸先端科学技術大学院大学 産学官連携推進センター 教授

早稲田大学学士(1980)、北陸先端科学技術大学院大学博士(知識科学)(2009)。三谷産業株式会社(1982)、国際赤十字赤新月社連盟(1999)、北陸先端科学技術大学院大学IPオペレーションセンター技術スタッフ(2004)、文部科学省産学官連携コーディネーター(北陸先端科学技術大学院大学配置)(2005)、北陸先端科学技術大学院大学産学官連携客員教授(2008)、北陸先端科学技術大学院大学 先端科学技術研究調査センター特任教授(2010)、北陸先端科学技術大学院大学 産学官連携総合推進センター教授(2013～)、富山大学 人間発達科学部 非常勤講師(2012～)、知識科学研究科教授 兼務(2016～)知的財産部門長(2017～)地域連携推進センター長(2018～)

講演者

小河邦雄: (国研)国立成育医療研究センター 研究所政策科学研究部 共同研究員

九大農学部で農薬化学専攻。筑波大の図書館情報メディア研究科修士、博士課程修了。博士(情報学)。大正製薬総研で創薬化学合成を担当後、情報部門の創設に携わり、その後、医薬事業企画部で創薬の情報支援や競合分析システムを作成。現在は、情報科学技術協会理事(検定試験担当)、中央大学講師を務める。情報科学技術協会による検索技術者検定の2級の公式参考書を執筆【書名「プロの検索テクニック」2018年、樹村房発行】。

山崎久道: 一般社団法人情報科学技術協会 会長

東京大学経済学部卒。1971年(株)三菱総合研究所入社。資料センター長、情報技術センター研究部長などを歴任。1997年宮城大学事業構想学部教授、同総合情報センター長。2001年中央大学文学部教授(社会情報学、図書館情報学)(2016年まで)。2003年～2007年中央大学情報環境整備センター所長。2017年7月一般社団法人情報科学技術協会会長。博士(情報科学)東北大学、情報処理技術者システムアナリスト。中央大学社会科学研究所 客員研究員